

## 2015 年度聖書の集い（第 4 回）

2015 年 10 月 14 日

桃山基督教会 古本 靖久

<http://momoyama.hannnari.com/>

- 1、聖歌 15 番 「来る朝ごとに」
- 2、お祈り
- 3、聖書 ローマの信徒への手紙 12 章 3 節～8 節（新約聖書 291 ページ）
- 4、今日の内容

### 神さまってどんな方？「④ 違ったままで受け入れてくださる方」

前回の聖書の集いは、台風の影響による休園のため、お休みでした。今回は 3 か月ぶりの会となります。運動会も無事に終わり、子どもたちの成長を感じる方も多いのではないのでしょうか。

さて本日の聖書の集いは、「違ったままで受け入れてくださる神さま」についてお話をしたいと思います。

### ① おとなりの子との違いに気づき始める

子どもたちが大きくなっていくにつれ、その活動範囲は広がっていきます。赤ちゃんの頃は家族や親せき、近所の方々など、限られた人たちとだけ交流していたのが、幼稚園に入り、お友達も出来ていきます。またお出かけする場所も増え、たくさんの人たちと話す機会が増えていきます。

その中で、周りの人たちが自分とは「違う」ということに少しずつ気が付きます。同じ年齢の子であっても、背の高さや話す言葉の多さ、かけっこのスピードなど、何となく「みんな違うんだなあ」ということがわかってくるのです。

しかしそれと同時に「隣の子との違い」にわたしたち親も敏感になってきます。「〇〇ちゃんはきちんとあいさつできるのに」、「〇〇くんはもうひらがな書けるのに」。わたしの子もまだプールの顔つけができないので、ついつい言ってしまいました。「ねえ、学校の友達の中で、まだ顔つけ出来ない子っているの？」「えーと、えーと」。一生懸命考える彼の姿をみて、内心「しまった」と思いました。

## ② 人と違うことっていけないことなの？

わたしたちは、子どもたちの成長を心より願っています。それはとても大切なことです。しかし、「あなたはこう育たなければいけない」というプレッシャーをかけすぎるとどうでしょうか。

そもそもわたしたち人間は、一人ずつ違うように作られています。肌の色や身体能力、顔つきや考え方で、今地球上には 72 億人もの方がいますが、一人として同じ人はいないのです。ではどうしてみんな違うのでしょうか。

聖書は、体の一つひとつの部分の役割が違うように、わたしたちも違うのだといいます。例えばレゴブロックを思い浮かべてみましょう。子どもたちはたくさんのパーツを組み合わせて、驚くようなものをつくり上げていきます。もしレゴのパーツが白い真四角のものだけだったらどうでしょう。ちっとも面白くないと思うのですね。でも小さいものや大きなもの、曲がったものやタイヤ、ハンドル。そしてたくさんの色が集まって、一つの作品になります。

違うからいいのです。そして違いがあるからこそ、みんなで手を結ぶと、もっと楽しいのです。

## ③ みんなちがってみんないい

最後に NHK 教育テレビ「にほんごであそぼ」で歌われていた金子みすゞさんの「私と小鳥と鈴と」という詩を紹介いたします。

私が両手をひろげても お空はちっとも飛べないが  
飛べる小鳥は私のように 地面（じべた）を早くは走れない  
私がからだをゆすっても きれいな音は出ないけど あの鳴る鈴は私のように  
たくさんな唄は知らないよ 鈴と小鳥とそれから私 みんなちがってみんないい

わたしたち大人だって、みんな違います。出来ることもあれば、出来ないものもあります。得意なこともあれば、苦手なことだってたくさんあります。でも大丈夫なのです。そんなわたしたちを、神さまは大切に思ってください。だから子どもたちの前でも、肩ひじ張らない自然のあなたでいてください。

そして子どもたちにも伝えてください。「あなたはそのままでもいいんだよ」と。神さまがわたしたちを受け入れてくださったように、みなさんも子どもたちを「ありのままに」、愛してください。